

第 14 回 柳瀬川・空堀川流域連絡会 議事録

日時：平成 18 年 6 月 30 日（金）午後 3 時～4 時

場所：北多摩北部建設事務所 第 1,2 会議室

1．開会

事務局

ありがとうございました。それでは引き続きまして第 14 回の柳瀬川空堀川流域連絡会を始めさせていただきたいと思えます。こちらのまとめは工事二課の野村課長が勤めさせていただきます。挨拶と進行をお願いいたします。

2．挨拶

行政委員（座長）

それでは柳瀬川空堀川流域連絡会を始めさせていただきたいと思えます。今日の流域連絡会は平成 16 年の 7 月に第 10 回ということで始めました第 3 期の流域連絡会の締めくくりの会でございます。この間 16 年の 7 月 1 日に 10 回をやりまして 11 回が 16 年の 11 月 5 日、12 回が 17 年の 3 月 28 日、第 13 回を今年の 3 月 27 日にやってきたわけでございます。今回で第 3 期を締めくくりまして、また今年の後半に第 4 期を始めていきたいと考えております。そういった意味で今日は第 3 期の締めくくりでありますので皆さんがたの忌憚のないご意見、感想を聞かせていただきたいと思います。では次第に基づきましてはじめたいと思えます。まずアの分科会等活動報告でございますが水量確保分科会につきましては今報告が終わったところでして、分科会として清瀬橋付近、東大和市さんの下砂公園付近ということでやってきたわけですがこの二つの懇談会につきましては今年 2 月にそれぞれ清瀬橋付近の懇談会については最終報告を出した、下砂公園付近の懇談会については活動のまとめをしましてしばらく休会という形になっています。特に本日私から報告ということはございませんけれども、清瀬市さんと東大和市さんから何かございますでしょうか。ないようでしたらこれについては終了させていただきます。続きまして河川整備計画につきましては河川部計画課から報告をお願いしたいと思います。

3．議事

事務局

河川部計画課の池田と申します。よろしくをお願いいたします。座って説明させていただきます。3 枚つづりの資料ですが 5 月 15 日付の東京都建設局の記者発表資料の抜粋です。昨年度末に認可を受けて柳瀬川流域河川整備計画が策定されました。策定にいたるまでにはこちらで参加いただいています柳瀬川空堀川流域連絡会のメンバーの方々いろいろな貴重なご意見等いただきましてありがとうございました。いただいた意見等をもとにまとめましたものが厚い冊子の柳瀬川流域河川整備計画になります。プレス発表資料の下側にありますように閲覧可能な場所ということで東京都建設局のホームページでも載せておりますし、新宿の第 2 庁舎やこちらの北多摩北部建設事務所でも閲覧可能なようになっています。ホームページでは今までのいただいた意見やそれに対する考え方をまとめた報告がありますので、ご覧になっていただければと思います。内容については概要の最後のページで簡単にまとめてありますが、整備保全の方向性につきましては三枚目の二重丸のところ、

河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全に関する事項という部分の中で、目標としまして動植物の生育・育成・景観・水質維持などに必要となる維持流量の設定に努める。治水や河川管理上支障のない範囲で河畔林や河岸などの保全を図る。自然環境と調和を図りながら、管理用通路の緑化や親水性の向上を図る。以上3つを掲げてあります。具体的な実施内容としましては空堀川における水量維持に向けた方策（不浸透材による河岸張り等）の効果検証、河畔林や自然に形成された淵等からなる自然形態の保全、流路が蛇行しやすくすることによる自然な河岸の形成、落差工部分の水循環の連続性の確保、旧河川敷など可能な場所での水辺へのアクセスの確保、といったことを行っていくこととなっています。もうひとつ大きな項目としまして、河川情報の提供、地域や関連機関との連携に関する事項という部分につきましては新河岸川流域整備計画に基づき、家庭・事業者や関係機関などと協力することにより雨水の貯留、浸透施設の普及に努める、そういったことも策定されています。こちらは概要版として簡単に取りまとめたものですので、詳しい内容等についてはお手元の冊子をじっくりご覧になっていただければと思います。以上です。

行政委員（座長）

ありがとうございました。ではこの柳瀬川流域河川整備計画につきまして、何かご意見等ございましたら伺いたいと思います。いかがでしょうか。小林さん、どうぞ。

団体委員

小林です。概要の中で空堀川の水量維持に向けた方策というのは河岸張りといったことであげられていますが、われわれが今までやってきた水量確保に関する提言というのは具体的にどう書かれていくのでしょうか。

行政委員

河川部の長島と申します。タイミングの差でして、こういった流域連絡会あるいは水量確保分科会では整備計画策定と同時進行しているようなことで必ずしも反映できていない項目がほかの河川でも多々ございます。基本的にはそういったことがここに書いてないからやらないというわけではなくて、必要があればこの改訂も何年かに一回は見直しもございまして、社会情勢やいろいろな状況の変化によって改定していく整備計画ですしそれを私どももきちっと受け止めて実施にうつせるものはきちっとやっていきたいという考えでございまして、その点をご心配ないように、ということでございます。

団体委員

わかりました。是非よろしく願いいたします。

事務局

じつは水枯れというのは空堀川だけではなくて武蔵野台地部の中小河川全体の課題ということで河川部さんでそれに対応するために検討を始めていただいていますので、いずれ何らかの形でまとまっていくのではないかと思います。

行政委員

今大久保さんに言っていただいたように技術センターとタイアップしているいろいろな河川で雨と水枯れの因果関係ですとか対策にいたるまでさまざまな検討をしまして、中間報告という形で今まとめ中でございますけれども、そういったものが出来ましたらまた報告したいと思います。都議会の中でも昨年度3月の委員会の中で、野川で水がかれているようだけれども、ということで原因究明とかさまざまな対策という観点でご質問いただいていますし、私どもの局長もそれに答弁しています。そんな流れで議会でも話題になっていますので、私ども河川管理者としても問題を認識しているということです。

団体委員

特に空堀川は昔18キロくらいあった流域全長の長さが今はまっすぐな河道になってしまって川が整備されたあかつきには14.8キロとか14.7キロとか、そういう川になってしまいます。水がなくなってこれから夏になりますと枯れた川道の石は焼けてしまって手がやけどするくらいの熱さになってしまいます。周りの草も熱くなってしまう。この熱の帯が夜の夜中まで続いていくということは、ヒートアイランドといえますか環境問題ということからしても相当問題があると思います。一度水が枯れるとそこにいる生き物が全滅してしまいます。水が上から下まで流れてつながっていることによって地域が冷やされるとか風が渡ってきて涼しいとかいろいろ癒される面が出てくると思います。ですからこれはわれわれだけの問題ではなくて地域の問題として環境対策としても放っておける問題ではないと思います。空堀川は重点河川として東京都は力を入れていると言っていますけれども、入れておられるのなら川を救うだけではなくて、また見直されているようですが、そういうところに重点としてやっていただきたい。私たちが一生懸命やっても将来が見えてこない、いつまでたっても空堀川は良くなってこない。東京都も一生懸命やっているので申し訳ないのですが、空堀川に関心を持っている者としては是非よろしく願いしたい、と思います。

行政委員（座長）

他にはないでしょうか。

公募委員

関連して、ということになるのですが水枯れが空堀川の最大の問題ということで繰り返し話が出ていますが、各市がいろいろ対策を言葉として表記されているわけです。この具体化をきちっとしていただくということで東京都と各市向き合って是非早く進めていただきたい、と思います。市街化率の貴重なデータがまとまって出てきまして大変ありがたいと思います。目でしっかり捉えられます。一つはこういう現状に対してどう手を打つか、ということだと思います。市街化率と水との関係ですね。地面に吸い込まれる雨水が市街化によってどう整備されて川の流量とどうかかわってくるのか、ということはこのデータからさらに追求していただきたいしそれが川作りに反映するというふうになれば一番よろしいのではないかと、思いますしそういう方向で是非進めていただきたい。まずは市街化

率とその辺が疑問として当然残ってきます。大正 10 年ごろの水循環と市街化率が高くなったことによって水循環がどう変わったか。人口がどうか変わったか。人口が増えるということは生活で相当水を使っているわけですから、その水がその地域でどう循環されているのか。前にも申し上げましたけれども、使った生活の水が下水で処理場よりずっと下流に行ってしまう。地域の中の水循環が正常に機能していない、という気がします。人口が増えてそれだけ水を使っているはず。それだけの水が河川にうまく入れれば、その地域での水循環は保たれるという気がします。大きなところでの水循環は時間がかかりますし、また見直しをしてもらう必要があります。河川だけの問題ではない、ということ、気象との問題とかさまざまな問題が入ってきますが、引き続き是非進めていっていただきたいと思います。それから整備計画の概要のなかで、西武多摩湖線から薬師橋上流の絵が書いてあります。出来上がった絵がきちっとあるというのは非常にわかりやすいです。これに数字が入ってまして、川の幅が 24 メートルから 12 メートル、管理道路が 4 メートル。そこに立派な木が生えていますが、これが高木になるのか中木になるのか良くわかりませんがこの絵はぱっと見てこういうすばらしい川になるのか、と理解します。本当にこういう木が形作られるのですか。いろいろな話を聞くと高木は護岸をいためる、根が耐久性を弱めるということで今実際整備されているのは中低木ですね。そこに 4 メートルの管理道路がレンガで敷き詰められていますが、先ほど小林座長もおっしゃいましたが夏場がものすごく熱くなってしまいます。朝のうちと夜は良いかもしれませんが散歩が出来ない。せっかく整備されていい川にはなりますが、水量が少ないこともあって川の機能は十分ではない。夏場は非常に高温になってしまう。ですから植栽もほんとにこの絵のようになってほしいです。管理道路の日陰が作られて、風が当たってちょっと熱くても散歩が出来るくらいのこの絵のような理想の河川にしてほしいと思います。

事務局

空堀川では、おっしゃるように護岸に影響があるということできちっと守って木が少ないです。流域の皆さんの間でこういう風にしたいねということで、今後こうしていきたいという河川部の思いが入っています。なるべくこれに近づくようにやっていきたいと思っています。現に神田川や目黒川など見ていただきますと誰が植えるとかいろいろ細かいことはありますが、増えつつあるということです。

公募委員

桜の木を植えてほしいとがありますね。

行政委員

最近街路もそうですが新しくそういったものが出来るときは地元の皆さんにアンケートをとってやっている時代です。護岸の作り方にもよりますが、神田川や目黒川はコンクリートで造っていますので多少根張りしても盛り上がりということはないものから、ものすごく桜が植えられています。それはほとんど管理用通路に影響はないのですが逆に言いますと空堀川のように自然に近い多摩の河川であまり太い木で根が張ってしまいますと石積みですとかブロック系の護岸はちょっと弱いところがありますのでその辺の兼ね合

いですから、まったくこうならないとかなるということではなくて皆さんのご意見をいただきながら植栽を考えていこうということです。

公募委員

そうですね。住民市民の意見を聞くのは大切なことだとは思いますが、きちっとした方針を最初に提示していただかないとおかしな方向になってしまうということがありますので、その点をお願いしたいと思います。

団体委員

気になっていたのですが、自然に蛇行が出来た例ということで19ページの上のところの写真が出ていますが、これはちょっと認識が違うのではないのでしょうか。これは自然に出来た蛇行ではないです。見ていただくとわかるように右岸には柳の木が入ってる。反対側には土石が入ってる。そして水が当たったら蛇行するようになってます。周りにはわれわれが柳を植えたり菖蒲を植えたりしてきたんです。それをちゃんと認識してほしい、例としてあげないでほしいということです。

行政委員（座長）

では伊の河川整備計画についてはよろしいでしょうか。では次に移ります。今後の活動ということですが、今回は第3期の締めくくりということでございますので各委員の方々から柳瀬川空堀川について一言ずついただきたいと思います。では宮沢さんから順にお願いいたします。

団体委員

清瀬の宮沢でございます。ここで何回か参加させていただきまして川とはどういうものが、治水と環境とはおそらく両立するということを学ばせていただいたのもここではないかと思えます。今うかがいまして計画のうちから植栽や生態系を考え野鳥などにとっても河川が通り道になる、そういったことも考え植栽していただきたいという思いと将来に対する希望でいっぱいです。ありがとうございました。

行政委員（座長）

ありがとうございました。では小林さん、お願いします。

団体委員

第3期のはじめから空堀川水量確保分科会の座長をおおせつかりまして2年間、いろいろな資料も出まして空堀川の水量確保のためにこうしたらいいのではないかと方向も見えてきました。これを確認してこれからわれわれが出来ること、あるいは狭山丘陵の武蔵村山の山北公園あたりで植樹でもみんなでもしてみたいなど、そんな思いがしております。これからこの提言が具体的に少しでも前に進むように見守っていきたいと思っています。今後の流域連絡会ですが、参加したい人は結構いますので広く参加していただいて、水量分科会だけでなく生態系とか生き物に関する分科会が出来てますます発展していければいいなと思っています。よろしくお願いいたします。

行政委員（座長）

ありがとうございました。宮下さん、お願いします。

公募委員

東村山市の公募委員宮下です。天王橋付近はなかなか水の量が増えない、7月には水が枯れてしまっているいろいろな方面に呼びかけまして、新聞にも出たと思います。最近になって少し水が多くなったのではないかと思います。夕方になると流れが増すような感じです。それが森永さんの水だけなのかどこかほかのところから流していただいているのかわかりませんが、そんな状態で私は空堀川の様子を見えています。今後ともよろしく願いいたします。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

東村山市の道路交通課、中村と申します。委員会の皆さん、公募委員さん、小林さん、何回もの会議の中での提言書を作っていただきましてありがとうございました。行政としてもこういうものを見ながら空堀川の清流を取り戻す、という形の中でこれからも努力していきたいと思えます。以上です。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

今日は始めて出席させていただいたわけですが、皆さんが真剣に柳瀬川空堀川に清流を、あるいは川に水を呼び戻すということを協議していただいていることが良くわかりました。行政として協力できる範囲、あるいは行政として自覚しなければならない内容、それらについて持ち帰ってみなで話していきたいと思えます。今後ともよろしく願いいたします。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

東大和市の建設課、堂垣と申します。水量確保分科会及びに流域連絡会に何回か出席させていただきまして皆様の空堀川に水を確保したいという熱い気持ちがこの会を通じてよくわかりました。一方経済性や効率性を求める市民の方もおります。その中で相反する部分も耳にいたします。行政としては皆さんのお考えや調整をどのようにとっていくかというのが一番の課題なのかなと思っています。どうもありがとうございました。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

東大和市環境課の木内と申します。この4月に移動してきまして皆様には今日初めてお目にかかると思います。私が役所に入ったころ空堀川というのは大型U字工で水が汚れて悪臭を放つなどとても川とは呼べない状況でした。それがしばらく環境部から離れて今回移動から戻ってきまして空堀川の整備状況を見ますと自然に近い形になっているということで、それもこうした皆様の会が真剣に取り組んできた成果だと思い敬服する次第でございます。今後ともこの熱意を継続していただいてよりよい河川が出来ればと願っております。どうもありがとうございました。

行政委員（座長）

ありがとうございました。では三木さんお願いいたします。

公募委員

清瀬市の三木です。2期やらせていただきました。上から下まで、水量確保で森永乳業などいろいろなところを見学しまして、空堀川もいろんな顔を持っているのだということを見せていただきました。私どもの運動のほうは空堀川と柳瀬川の合流地点の工事の懇談会ですとか近くの清瀬橋付近改修計画がありますので市民の目も関心を持って川を眺めているように思います。特に北北建でやられたアンケートについて見せていただいたのですがあまり関心がないだろうと思っていたのが水量確保ということで皆さんの積極的な意見が出ている。これを見ますとがんばっていこうという気になります。懇談会でも自然団体と地域自治体とでいろいろありますけれども、話し合っていけばおちつくところに落ち着くという方向になっているように思いますので、幅広く市民の声も取り上げていただいて、目に見えてなかなか変わるものではないと思いますが、一歩ずつ進んでいきたいと思っております。どうもありがとうございました。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

多摩環境事務所環境改善課長の中村と申します。今までずっと欠席してまして申し訳ございませんでした。最近の空堀川柳瀬川の水量確保ですがこれは皆さんご承知の通り下水の普及によって水はきれいになるけど量は減ってしまう。これは都内の河川全部同じ問題を抱えています。その中で空堀川については先ほどから出ている森永乳業の汚水処理水が3千数百トン、かなり貴重な水源になっています。一点だけ、昨年11月ころ空堀川で異臭騒ぎが発生いたしました。すごく強い硫化水素臭があるということで東大和市と私ども多摩環境事務所で合同調査いたしました。当然北北建も現地で調査させていただきました。

幸いなことに市のほうで森永乳業の排水、下水を切り回して別へ流すようにして、12月10日ですか、森永乳業ほかクリーニング屋さんの水もほかへ移したところ、見る見る水が良くなったんですね。原因はここでは割愛させていただきますが、12月15日には異臭はなくなり空堀川の水の回復はなりましたが、今後こういう事故が起きないとは限りませんので、当然北北建、地元の各市と住人の皆さんと川は見つめていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

公募委員

今そんな話があったものですからちょっと続けさせてもらいたいのですが、まず住人のかたが気がつく問題だったですね。すぐに市に苦情を入れた市民もいるでしょうし、工場とわかっている人は連絡をいれた人もいるかもしれません。最初は原因がわからないということで時間がかかりました。初動のところがどうだったかな、という気がします。それと原因はわかったわけですが発生ところで目が行き届いていなかった。監査が行き届いていなかった。相当しっかりやっているようでも目が行き届かないところが残ってしまう。管理者も利用する人もかわるものすべてが目を開いていなければいけない。あと連絡網であるとか初動のシステムの問題があるのかもしれないので、そういったことも含めて一つの反省材料ではないかなと思います。話は戻りますが、今回流域連絡会の委員として参加させていただいて大変勉強になりました。勉強するとますます川は難しい、と思いました。水が難しい自然環境が難しいということにもなると思います。一つは経済性の問題があります。工事をする、整備するということになると必ず経済性の問題が出てきます。理想を追うのか、どこかで折り合うのか、税金を使ってやるわけですから答えは難しいですが、市民住民と行政とで決めてやらざるを得ない、ということだと思えます。河川の場合は治水が第一で環境とどうおり合わせるのかということだともおもいますが、その辺の難しさを感じます。住人に理解を求めるという意味での広報活動がまだまだ足りないという気がします。行政も出来るだけの広報をしてもらって、正しい認識を市民住民に持ってもらうようにしないとおかしな方向に行ってしまう可能性がありますから、そのことが大切だなという気がしました。もう一つは行政がどうしても縦割りになっていますので、そのところがもう少し横に横断的な対応が出来るようにしていただけたらと思いました。いずれにしても大変難しい問題で時間もかかることですので、私も引き続いて感心を持って協力させていただきたいと思っています。ありがとうございました。

行政委員（座長）

ありがとうございました。三浦さんお願いいたします。

公募委員

東村山市の公募委員、三浦といます。欠席することもありまして申し訳なく思っています。この連絡会に参加しまして非常に勉強になったなと思います。私の家の近くにも空堀川がありますが、委員になる前はほとんど関心がなくて、連絡会に出席して委員の方や行政の方が一生懸命考えているなと感じまして、通勤などで意識するようになったかなと思います。いろいろ勉強させていただいて難しい問題がたくさんありますのですぐに解決

するというわけには行かないと思いますが努力を続けて環境がよくなっていけばいいかなと思っています。ありがとうございました。

行政委員（座長）

ありがとうございました。桑原さんお願いいたします。

公募委員

東村山の公募委員です。河川のあり方についていろいろ勉強してきたつもりですが、資料を見ても空堀川は難しい川だ、と思います。河川としての機能を生かすためには、地下水の受け皿となる透水層についてもっと勉強しないとちょっと工事しても長持ちしないのではないのでしょうか、多くのデータを生かせるようにしていただきたい、と思います。

行政委員（座長）

ありがとうございました。では原さん、お願いいたします。

公募委員

東大和市の公募委員、原です。空堀川は市の真ん中を流れますので、豊かな水が流れる川になれば皆さんが生活するうえで非常に良いのではないかと、思いまして役に立つことがあればと参加いたしました。難しいところがあると思いますが、水が流れて潤いのある生活に役に立てばいいと思いますし、東大和で工事が進みましてさっそく子供たちが集まってきて遊んでいるところを見ますと皆さんの努力がなされていると感じます。なかなか難しいとはおもいますが、自然に淵が出来るような川にしていただければありがたいと思っています。われわれに出来ることは市民に向けてPRをして、川を良くしようという世論の形成が役目ですので、出来るだけ努力していきたいと思っています。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

武蔵村山市環境課長の比留間と申します。この4月に移動になりまして今回この会に出席させていただきました。今回は何も出来ませんでした。武蔵村山市としては最上流に位置するということで、下水処理やカタクリの湯の利用など検討しながらいろいろ勉強していきたいと思っております。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

清瀬市建設部の谷野と申します。私も3期の途中からということで勉強する機会がほとんどなかったという状況なのですが、先ほど小林さんがまとめていただいた提言10項目、水量確保は清瀬市にとっても主要な課題ですので、皆さんの協力や行政の努力によってひとつでも実施が出来て水量確保出来ればいいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

清瀬市の市民生活部長、金子です。担当は河川の水量や水質をやっております。朝早朝散歩の方が増えてきています、工事のおかげではないかと思いますが、それに伴いまして水量の関係で住民の皆さんや議会の要望が出てきています。今後より具体的な施策の要望、関係省庁とも協議しながら具体策を実現させていきたいと考えております。以上です。

行政委員（座長）

ありがとうございました。

行政委員

河川部副参事の長島と申します。ちょっと違う観点のお話をさせていただきますと、このようにわれわれ河川管理者と流域の皆さんと一緒に会議で意見交換できるようになったというのはそう歴史のあることではございませんで、平成9年に河川法が改正になって暗中模索の中で時には囂々喧々囂々時には和気あいあいと意見交換ができるようになったのは良かったと思っております。われわれはどうしても365日のうち1日か2日しかない水害の発生といったことを基本に考える傾向がありますので、こういった話し合いの場で普段の川の状況といったことも重要だということのをわれわれも認識し、考えていきたいと思っています。それとこれから役所では団塊の世代が大量退職を迎える、ということであまり水害を経験していない若い世代の人たちに川と自然と洪水対策のありかたを継承していくとともに、若い目で河川行政を見ていけるのではないかと、思っております。ありがとうございました。

行政委員（座長）

ありがとうございました。いろいろ貴重な意見も出ましたし、勉強になった、あるいはこれからもっと勉強したいといった意見もございました。水量確保分科会につきましては小林座長の協力もありまして、これから一步でも足を踏み出せば、と考えております。第3期につきましてはこれで締めくくりということで、流域連絡会自体につきましてはまた第4期ということで引き続きよろしく願いしたいと思います。では4期からのご意見等につきまして事務局からお願いいたします。

事務局

皆さんありがとうございました。おかげさまで第3期無事終了することが出来ました。事務局から2点だけ、ひとつは前回前々回に流域連絡会として空堀川の案内看板をつけたらどうか、という提案がありましたので、作業状況を説明いたします。今年の8月ころに前に打ち合わせしました4箇所に設置するという事をご報告いたします。二点目は流域連絡会4期目ですが、今年の12月に4期目を立ち上げたいと思っております。資料の後ろのほうに第4期柳瀬川空堀川流域連絡会委員募集のお知らせ、があります。これはまだ案ですが、こういう形で委員募集をさせていただきます。9月末から10月上旬ころ各市の広報に掲載していただくと思っています。800字の作文を書いてもらいましてその締め切りを10月終わりごろにしようと思います。それを書いていただいてから11月下旬くらいに委員を決めまして本人に通知させていただく、という手順で第4期をやろうと思っております。詳しい内容については各市さんの広報でご覧いただきたいと思っております。それから次のA3版のページはどういうことかといいますと、流域連絡会未来に向けてというタイトルですが、3期までは空堀川と柳瀬川は改修途上ですので水量確保もそうですがハード系の課題が多くてそこを議論してきました。予算も少なく実現できなかったところも多かったです。そこが残念だったのですが、今後流域連絡会をさらに活発に活動させるために水量確保とかハード系の課題に加えてソフト系の課題も取り上げたらどうか、ということで参考までに作りました。いくつかキーワードがあります。空堀川というのは下流のほうは武蔵野の雑木林、中ほどはビオトープ、上流はトトロの森がありますね。そういう中でたとえば武蔵野の雑木林と一体になった川づくりですとか、湧水の復元、水量の確保ですとか川の生きものといったキーワードのもと、散策マップや湧水マップなどの啓発的な資料も作ったらどうか、とか流域連絡会が主催して川まつりとか生きもの観察会などのイベントをやることも出来るのではないだろうか、ということでご参考までに作らせていただきました。今後第4期に向けてお友達なども誘っていただいてぜひまた参加していただきたいと思っております。事務局もがんばってやりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

行政委員（座長）

では今日用意されました議題については以上で終わりでございますが、最後に何かございますでしょうか。

団体委員

ひとつ。われわれ6月の環境デーの前後に市民団体が全国的に水質調査をやっています。空堀川にフェンスがあってそこから鍵を開けあるいは乗り越えていきますが、ポイントになっているところは大体橋を中心をやっています。鍵を開けて降りると垂直の壁が5メートルくらいあります。そこで計測器を持って降りると非常に怖い、と毎年思います。河川を設計する人は一度設計したところを降りてみてこれで普通に降りられるのかどうか、見て経験されるといいと思います。橋を中心とした降りるところ、護岸を何とか考えていただきたい。事故が起こってからではどうしようもないですから、その辺を考えていただきたいと思っております。

行政委員（座長）

わかりました。

団体委員

もう護岸工事がきっちり出来てしまっていますので、どうにもならないというあきらめ
でおりますけれども、上流の志木街道に近いところなどでは集めたごみを上にあげられな
い、降りる際は下へ降りるというよりも落っこちていく感じです。危ないなという思いで
いつもいるのですが、怖いと最近感じます。考慮していただけるのなら親水階段を途中に
何箇所かつけていただくとか考慮していただけるとありがたいなと思います。

公募委員

採水するときは採水器というのがあります。それを使えば楽に採れると思います。普通
河川の場合採水器のような高価なものはいらぬですね。1 リットルくらいの小びんの下
に鉛の重りをつけてやりますといいです。

団体委員

採水器ではなくて降りて行ってその場で水の透視度を測ったり、持って帰ってというこ
とですね。

公募委員

その場で測るにしても、危ないときには採水器を使ってですね。

団体委員

いや、そんなに水はないです。上からバケツでくむとか、採水器でとか言うのは難しい
です。

4．閉会

行政委員（座長）

ではその辺の意見も参考にさせていただくとしまして、今日の流域連絡会はこれで終わ
らせていただきたいと思います。どうも今日はありがとうございました。